

妻ヶ丘中学校だより

令和6年7月22日 校長 深江 祐史

一学期が終了しました

連日の猛暑で、全国各地で熱中症等の報道がなされる中、また新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配される中、お陰様で何とか令和6年度第一学期を終えることができました。生徒の中には、まだ県大会や吹奏楽コンクール代表選考会を控えている者もいることから、今学期の終業式はオンラインで実施することとなりました。関係生徒に影響が出ないことを祈るのみですが、大会に参加する生徒の皆さんは自分に出来る対策を怠ることなく精一杯力を発揮してください。健闘を祈ります。

1 終業式が行われました。

本日(22日)の終業式では、4名の生徒に「一学期の反省と今後の抱負」を述べてもらいました。

1年代表の 野平 希来さんは、初めての中学校生活で最初はとまどったこと、また①ボランティア活動に積極的に参加できなかった②メリハリのある学校生活がおくれなかった点を反省点として挙げました。そして、今後の部活動では「礼儀」と「やる気」を意識して先輩方に近づきたいと抱負を力強く述べました。

2年代表の 森 結愛さんは、①これからますます勉強と部活動の両立が難しくなってくるので自分なりの勉強法を見つけたい②部活動では2年生が中心となるので3年生から教えられたことをしっかりやっていきたい、そして二学期にある職場体験学習と修学旅行を学年全体で成功させたいとの意欲を述べました。

3年代表の 高橋 生守さんは、部活動では仲間と充実した活動ができて、自分の持つ力以上の成果が出せたこと、また二学期に向けては、自分が苦手としている①時間の使い方と②自分に自信を持つことを意識して頑張りたいとの言葉がありました。しかし、原稿を見らずに発表する本人の姿はトライしようとする気持ちが感じられ、好感が持てました。進路実現に向けて頑張ってくださいね。

生徒会代表の 松山 佳奈依さんは、1年生には励まし、2年生へは期待、そして3年生には一致団結して受験の壁を乗り越えようとエールを送りました。さすが、普段から全校生徒を意識している生徒会だと感じました。最後に、今後予定されている様々な活動への協力依頼もありました。伝統ある本校の生徒会活動、みんなで盛り上げていってほしいですね。

その後、私からは、全校生徒に対して以下の話をさせていただきました。

(略)さて、いつもと同じ「自立・感謝・貢献」です。振り返ってみてください。

まず、「自立」です。自分一人でできることが何か一つでも増えましたか? 「なりたい自分に向かっていきますか?」

次に「感謝」です。いろんな人、いろんなことに感謝していますか?前にも言いましたが、それがで

きている人は、きっと知らないうちに誰かに感謝されていると思います。心の健康を保つためにも「感謝の心をもつ」というのは大変効果があるそうです。

最後に「貢献」です。誰かの何かの役に立つ行動がとれましたか？今学期も地域の方からいろんな声をいただきました。複数の公民館長から直接、私に地域の活動に妻中生が協力してくれて本当にありがたかった、嬉しかったと電話を頂いたこともありました。

生徒会活動も相変わらず素晴らしかったですね。生徒会のおかげで、妻中は地域から、また都城市内の各種団体からもボランティア精神あふれる学校として認識されています。すでにいろんなプロジェクトが進んでいるようです。頑張ってください。

今日は一学期、終業の日です。節目、節目に、自分を振り返ることはとても大切なことです。しっかり振り返って、次の一步を踏み出す、その向かう先を間違えないようにしてください。

いよいよ長い夏休みに入りますが、特に三年生の皆さんにとっては、これまでの夏とは違います。ぜひ「勉強に燃えた夏」にしてください。毎年、夏休み明け、劇的に変わった中3生をこれまで数多く見てきました。そういう3年生に何かいいアドバイスはないかと思って、先日、本を買いました。「科学的根拠に基づく最高の勉強法」(安川康介 著 株式会社 KADOKAWA)です。参考になることがいくつも書かれてありました。中には大人にもできるかなというハイレベルのものもあったのですが、ひとつだけ、みなさんに紹介します。

それは、「スマートフォンをどこかへ・悪い習慣を断ち切る!」です。

【研究1】

大学生に2つの条件下で6分間勉強してもらい、その後に内容についてのクイズを受けてもらった。1つは、携帯で誰かとメッセージをやり取りしながら勉強するグループ。もう1つは、携帯を視野の外に置いて勉強するグループ。

その結果、メッセージをやり取りしながら勉強を行った場合、クイズの点数が27%悪かった。

【研究2】

520人の大学生が対象。スマートフォンを机の上に置くグループ、ポケット・鞆に入れるグループ、別の部屋に置くグループに分けて、認知機能を測定するテストを行った。

すると、スマートフォンを別の部屋に置いていた学生たちの方が明らかに良い結果を得た。

この本では、科学的根拠に基づく勉強法として「勉強に集中したいときは、スマートフォンを別の部屋に置いた方が良い」とっています。「よーし、勉強! スマホは絶対に触らないぞ!」と心の中でいくら叫んでも、悲しいかな人間の意志というのは習慣には勝てないことがあり、数分間後に気付いたらスマートフォンを触っている自分がいる…なんてこともあるのではないのでしょうか。

この本では、「スマートフォンは恐ろしい、使っていないくても、机の上やポケットの中にあるだけで、脳のパフォーマンスに影響を与えている」との記載もあります。

科学的根拠がある方法とのことです。勉強に燃える夏にしたい人、スマートフォンとのつきあい方で悩んでいる人は、ぜひやってみてはいかがでしょうか。

それでは、生徒の皆さん一学期、本当によく頑張りました。新学期に、また一つ成長した皆さんとの出会えることを楽しみにしています。保護者の皆様、一学期、大変お世話になりました。しばらくの間、子どもたちを家庭・地域にお返しますが、どうぞよろしく願いいたします。